

気候情報

2009年10月の日本の天候

- 台風の上陸・接近により太平洋側と沖縄・奄美で降水量が多かった
- 気温の変動が大きかった
- 沖縄・奄美では日照時間がかなり少なかった

10月の天気概況

月を通じて、天気はおおむね数日の周期で変わったが、上旬と下旬に2つの台風の影響を受けた。上旬には、台風第18号が南大東島付近から四国の南海上を北東進し、8日には愛知県に上陸、その後本州を縦断した。この影響で、北海道から沖縄地方にかけて暴風や大雨となったほか、千葉県や茨城県では竜巻が発生した(台風が上陸したのは2007年9月以来2年ぶり、10月に上陸したのは2004年以来5年ぶりとなる)。また、下旬にも台風第20号が沖縄に接近、その後、関東の南東海上を進み、沖縄・奄美や東日本太平洋側を中心に大雨となった。これら台風による影響で、月降水量は太平洋側では多くなり、沖縄・奄美ではかなり多くなった。

なお、沖縄・奄美では、台風の影響や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多く、月間日照時間はかなり少なかった。

気温は、北日本から西日本にかけては変動が大きかった。月のはじめと中旬後半から下旬にかけては平年を上回った一方、上旬後半から中旬前半にかけては寒気が流れ込んだ影響で全国的に平年を下回った。また、沖縄・奄美では7月以降、平年を上回る状況が続いていたが、中旬にはようやく平年を下回った。

上旬：2～3日は前線を伴った低気圧が通過したため、全国的に雨となり西日本の一部では大雨となった。その後も、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、南海上に停滞した前線や、6～7日にかけて南大東島付近から四国の南海上を北東に進んだ台風第18号の影響により、曇りや雨の天気が続いた。台風は、8日には強い勢力を保ったまま愛知県知多半島に上陸し、東海、関東甲信、東北地方を縦断した。このため、沖縄地方から北海道にかけて暴風や大雨となったほか、千葉・茨城県では竜巻が発生し、大きな被害が発生した。台風の通過後は上空に寒気が流れ込み、全国的に気温は平年を下回り、所々にわか雨がいった。

中旬：気圧の谷の影響により14日と17日には全国的に曇りや雨となったが、そのほかは移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。18日からは北日本では

低気圧の影響で曇りや雨となった。沖縄・奄美では前線の影響により曇りや雨の日が多かった。

下旬：はじめは移動性高気圧に覆われて晴れたが、24日からは南海上の前線の影響により東・西日本の太平洋側では曇りや雨となった。25日には台風第20号が沖縄・奄美地方に接近、その後27日にかけて関東の南東海上を北東に進んだため、東日本太平洋側と、沖縄・奄美を中心に大雨となった。期間の終わりは移動性高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、北日本を寒冷前線が通過したことにより、青森県、秋田県では竜巻が発生した。

10月の気候統計

月平均気温：全国的に高かった。なお、北日本から西日本にかけては気温の変動が大きかった。

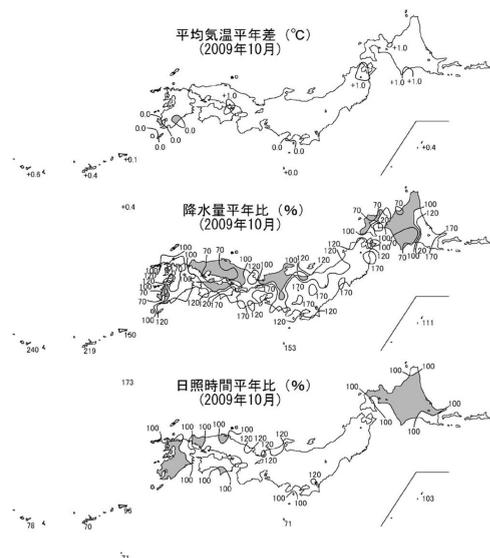
月降水量：沖縄・奄美でかなり多く、北日本から西日本にかけての太平洋側が多かった。北日本から西日本にかけての日本海側では平年並だった。

月間日照時間：沖縄・奄美でかなり少なかった。一方、東日本では多く、北日本と西日本では平年並だった。(気象庁観測部統計室)

10月の記録(1位更新のみ)

- ・月間日照時間少ない方から(時間)
名護 120.4

2009年10月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。